

## 国際法模擬裁判の第一歩

私は国際法学研究会という国際法模擬裁判に取り組むサークルに所属しており、8/25~8/26 に行われた Asia Cup、9/14~9/15 に行われた観月杯、という 2 つの模擬裁判大会に弁論者として出場しました。

国際法模擬裁判大会とは、架空の国家間紛争を題材に国際司法裁判所（ICJ）を想定した法廷で、国際法に基づいた主張を行うものです。原告、被告それぞれの立場でメモリアル（書面）を作成し、口頭弁論を行って得点を競います。題材に類似した判例や学説の深い理解と、そのリサーチに基づいた説得力のある論が求められます。

Asia Cup は、東京で行われるアジア各国の大学チームが出場する公式大会です。約 1 か月半の準備期間で、先輩方のメモリアルを基に判例や学説の解釈を理解したうえで弁論原稿を作成し、先輩に裁判官役を務めていただいて何度も弁論練習をして準備しました。国際法模擬裁判の最も難しく、かつ面白いところは、事前に準備した原稿を読み上げるだけでなく、弁論の途中で裁判官からの質問に対し、その場で即時かつ論理的に答えなければならない点です。限られた時間の中で、質問にいかにか素早く論理的に答えることができるかが勝敗を分けます。自分が援用したい判例と本件の相違点や、対抗説などの存在も考慮したうえで、「なぜ本件ではその基準を用いるべきなのか」を突き詰めてリサーチを重ねて、自分なりの説明ができたときは達成感を得られました。本番では、フィリピンのチームと対戦しました。裁判官から想定よりたくさん質問され、うまくいかない部分もありましたが、あっという間の 15 分で、とても刺激的で楽しかったです。

個人順位は世界の壁を感じる悔しい結果でしたが、アジア各国の方と交流する非常に貴重な経験で、たくさんの学びを得ることができました。

海外チームの中には全く弁論原稿を見ずに 15 分流暢に弁論をしている方もいて、英語力の高さや、論の理解の深さに驚かされ自分もこんな弁論ができるようになりたい、と心から思いました。

9/14,9/15 の観月杯は、様々な大学がインカレでチームを組んで 1 か月準備する 1 年生

の練習大会という位置づけの非公式大会です。Asia Cup の準備と並行しての準備は大変でしたが、違う大学の先輩から指導を受けられたり、同じチームで大会に出場できたりするのはとても貴重な経験でした。

この大会では、初めて自分自身でゼロから書面を作成することに挑戦しました。理想の結論につなげようとしすぎるあまり、都合のいい解釈や、論理の飛躍が多くあり、何回も論を変えることになりとても苦戦しました。相手の論も理解し、譲歩もしつつ、様々な方向性を検討したうえで一番妥当で説得力のある主張を見つけて行うことの重要性を学びました。他大学の仲間や先輩方と議論することで、自分では気付かなかった新たな視点を得ることができ、とても楽しかったです。気づいたら2時間議論していたこともありました。チームメンバーの所属大学が異なるため、準備はすべてオンラインでした。だからこそ、大会本番で会って話すことができたときはとても嬉しく、大学生活などの話も聞けて楽しかったし視野も広がりました。

この夏、これら2つの大会を通して、論を深く理解すること、説得力のある主張を作ることの大切さと難しさ、そして英語力向上の必要性を実感しました。また、国境や大学の垣根を超えた多くの仲間やライバルに出会えたことは、これからの大きなモチベーションになりました。

今回の悔しさと学びを糧に、次の大会では成長した姿で仲間に出会えるよう、これからも国際法の理解と英語力の向上に努めます。